第１４９回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２９年３月２７日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD スプリングワークショップ
「初年次セミナー科目による事例報告」
２．日　時：平成 29 年 3 月 3 日（金）10:30～12:00

３．場　所：文教キャンパス　第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
平成 28 年度より、これまでの「教養ゼミナール」に代わって「初年次セミナー」がスタートしました。この科目では、学部基礎としてだけでなく、教養科目として全学モジュールの履修にスムーズにつながっていくような授業設計が改めて求められています。事例報告では、今年度の初年次セミナー科目担当者から授業経験を紹介していただきます。苦労した点・失敗した点も含めて、互いにざっくばらんに実践交流を行うことで、来年度の授業に向けて工夫を考えあうとともに、より活用しやすいラーニングティップスのあり方や必要なコンテンツ提供のためのアイデアなどを出していただければと願っています。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】河本和明　教授（水産・環境科学総合研究科）
近藤能子　助教（水産・環境科学総合研究科）
山田耕史　准教授（医歯薬学総合研究科）
【内容】
①初年次セミナー科目からの事例報告

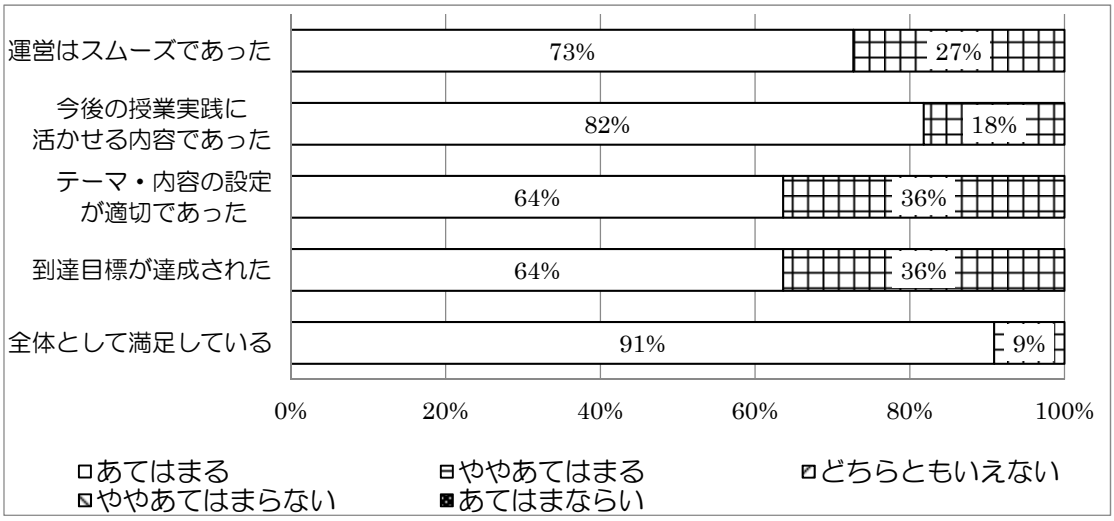
②事例報告を受けての自由な意見交換

【到達目標】
①初年次セミナー科目の授業経験を共有する
②来年度の授業に向けて、授業改善案を出すことができる。
③教室環境や制度的背景等に課題がある場合、改善案を出すことができる。

９．参加者：18 名（受講証発行対象者：17 名）
（内訳）

所　　属	人　数
教育学部	2
医歯薬学総合研究科（保系）	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
医歯薬学総合研究科（薬系）	2
水産・環境科学総合研究科（環境）	8
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
大学教育イノベーションセンター	1
言語教育研究センター	1
理事	1
計	18

１０．実施したＦＤの成果等
（１）参加者からの評価（回答者：11 名）



●今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

教育職員

- 初年次セミナーをどのようにするかイメージできました。
- レポートの書き方の学びが、継続的に生かされているのかの検証が必要だと思う。
- 他学部の取り組みを聞け良かったです。
- 来年度に初めて担当するため不安要素が多々ありましたが、今回のプログラムは大変参考になりました。どうもありがとうございました。
- これからの授業の参考になりました。こういうFDは助かります。
- 授業で採用したい内容・進め方を紹介いただき、参考になります。部局により異なる点があることを知りました。
- 各学部で、初年次セミナーの形態（開講日や学生グループ分けの方法など）が異なっており、それぞれでの奮闘ぶりがよく分かり大変参考になりました。もっとも重要な項目といえそうなテーマ設定については、学生の興味がベースor教員がある程度テーマを設けておくべきなのかは、難しい部分だと思うが、両者の長所・短所を伺うことができたので、来年度の初担当に向けて参考になりました。ありがとうございました。
- どんなことに注意をすればよいかわかって、イメージがついた。

事務職員

- 先生方が初年次セミナーの授業設計の中で経験等を踏まえられた様々な工夫をされていること、ICT基盤センターや大学教育イノベーションセンターの提供するコンテンツ等が先生方のお役に立っている実例をご紹介いただき、今後、教養教育についてのデータを分析する上で大いに参考にさせていただけると感じました。非常に有意義なセミナーをありがとうございました。

●長崎大学FDとしてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

教育職員

- アクティブラーニングの活用方法や例など。
- 学生による授業評価アンケートにより、良い評価を受けた教員による講義内容の概要を説明していただく機会は、良い刺激になって期待できると思いますが、いかがでしょうか。
- 授業の組み立て方、授業資料の準備、活用方法について。

事務職員

- 今回のような、先生方からの授業における様々な工夫についてご紹介いただくFDは今後も引き続き開催をお願いしたいです。今回の河本先生のご説明、冒頭でのお話「福岡の高校ではALが入っているが、長崎の高校はまだ進んでいない」ということに関連して、「今の1年生は実際どのような教育を受けてきた学生たちなのか」ということについてのFDなどもあるとよいのでは、と思いました。

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本シンポジウムは、平成 28 年度より、従来の「教養ゼミナール」に代わる形でスタートした「初年次セミナー」に関して、事例報告を中心に、平成 28 年度に担当された先生 3 名を講師に迎えて行われました。

最初に環境科学部・水産・環境科学総合研究科の河本和明先生より、少人数で行わる「初年次セミナー」の雰囲気作りのこつを、経験に基づき具体的にお話されました。また、テーマの設定を学生に任せた場合、かなり多様なテーマが提示されますが、その際の指導方法にも言及されました。教員本人の専門から離れたテーマを学生が選んだ場合、教員はどのような指導ができるか、有益な実践報告をいただきました。

次に、水産学部・水産・環境科学総合研究科の近藤能子先生より、水産学部の学生を対象とした初年次セミナーの事例報告が行われました。近藤先生は、初年次セミナーを 4 月 5 月のファーストクォーターで実施した場合の、週 2 回の授業の展開の方法を報告していただきました。週 2 回開講を利用してうまくいった点をまとめていただきました。また、同時にうまくいかなかった点も指摘していただき、今後クォーターで担当する先生に、有益な情報を与えていただきました。

最後の講師は、大学院医歯薬学総合研究科の山田耕史先生でした。山田先生は、医学科、保健学科，歯学科、薬学科、薬科学科混成グループによる「初年次セミナー」のすすめかたの報告をされ、多種連携学習の具体例を提示していただきました。多種ではあるが、医療にたずさわるという共通項をうまく利用したテーマ設定の方法を報告していただくとともに、発表会の指導や学生の評価の方法など、これから「初年次セミナー」を担当する先生に、役に立つ情報をいただきました。

3 人の発表の後、川越先生の司会で、フロアーとの質疑応答が行われました。特に「初年次セミナー」におけるグループの人数の問題や教員の成績評価の難しさなど、講師の先生との意見交換が行われました。

参加者の人数は、18 名と多くはありませんでしたが、質疑応答や講師の報告を聞く姿などから判断して、出席者の「初年次セミナー」に対する熱意が感じられる FD でした。参加者からの評価として、満足度はほぼ 100%に近く、参加者全員が満足していることも確認できました。　　（文責　小笠原真司　言語教育研究センター・教授）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　星野 由雅
e-mail：hoshino@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp　　電　話：内線 2077

第１４９回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２９年３月１７日提出）

１．題　　目：平成 28 年度 FD・SD スプリングワークショップ
「クォーター制導入の科目による事例報告」

２．日　時：平成 29 年 3 月 3 日（金）13:00～14:30

３．場　所：文教キャンパス　第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
平成 28 年度より，教養教育ではクォーター制の導入が始まりました。クォーター制は，グローバル化に伴う学生の留学促進のためだけではなく，単位の実質化や学習の深化といった教育改善の視点も含んでいます。そのため，シラバスの見直しも含めた授業設計や方法の再検討なども求められています。事例報告では，今年度，クォーター制を導入した科目の担当者から授業経験を紹介していただきます。苦労した点・失敗した点も含めて，互いにざっくばらんに実践交流を行うことで，来年度の授業に向けて工夫を考えあうとともに，教室環境や制度的背景等についても改善提案を出していただければと願っています。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】田中 浩二　助教（医歯薬学総合研究科）
川越 明日香　助教（大学教育イノベーションセンター）

波佐間 逸博　准教授（多文化社会学部）

【内容】

①クォーター制を導入した科目からの事例報告

②事例報告を受けての自由な意見交換

【到達目標】

①クォーター制を導入した科目の授業経験を共有する

②来年度の授業に向けて，授業改善案を出すことができる。

③教室環境や制度的背景等に課題がある場合，改善案を出すことができる。

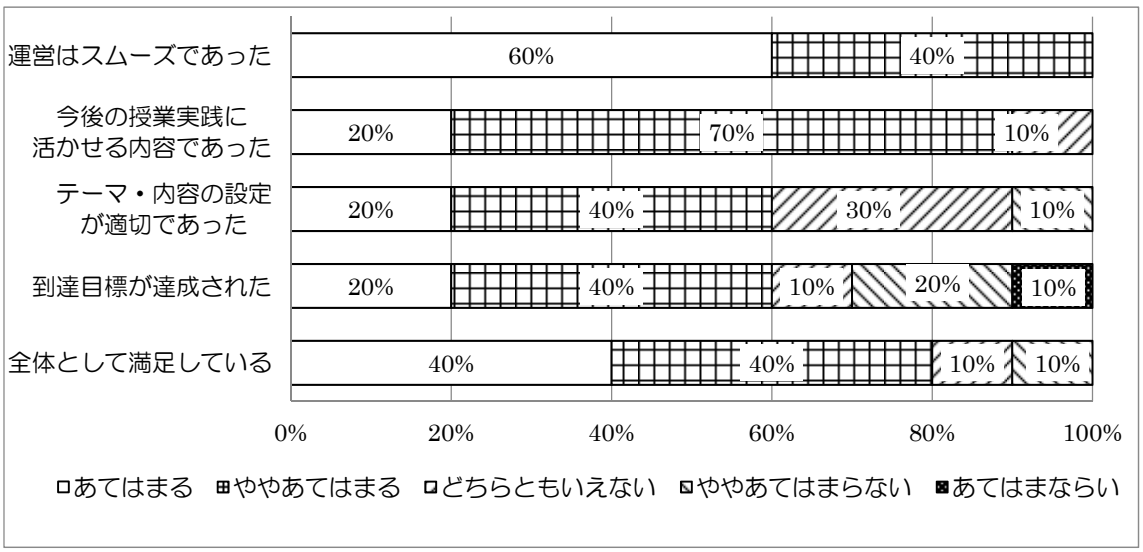
９．参加者：15 名（受講証発行対象者：15 名）

（内訳）

所　　属	人　数
多文化社会学部	3
教育学部	5
医歯薬学総合研究科（保系）	2
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
産学官連携戦略本部	1
ICT 基盤センター	2
地域教育連携・支援センター	1
計	15

１０．実施したＦＤの成果等

（１）参加者からの評価（回答者：10 名）



●今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

教育職員

- みなさんの実践が聞けて大変参考になりました。機会がありましたらぜひ授業を参観させていただきたいです。
- プレゼンやディベートなどを行わせるのに２校時連続が有効なのは確認できた。しかし，自分の担当は理系基礎科目（数学・物理など）が多いので，その事例も紹介してほしかった。教養科目ではないが，工学部の学部モジュールでクォーター制が実施されているようなので，その事例紹介などはできなかったでしょうか。
- クォーター制導入によるメリット・デメリット，セメスター制との違いをもっと内容の中心にすべきだった。2 番目の報告以外は，その部分が少なすぎた。
- 勉強させていただきました。他の学部の先生方の意見等を聞ける，良い機会となりました。関係者の方々，ありがとうございました。今後とも継続的な開催を希望いたします。
- クォーター制導入の課題の一つに教材の作成と学生への課題の提示が挙げられるかと思います。そのモデルとなる方法や報告をお願いしたいと思います。
- 授業設計を行なううえで参考になった
- 今回ご紹介いただいた取り組みにはただただ頭が下がる思いです。H29 年度より自分の担当科目（教養）もクォータ制に移行しますが，是非参考にいたしたいと思います。今回は授業実践の部分にフォーカスされたご講演を拝聴いたしましたが，次に同様の FD 等が催されるようであれば，授業設計の段階での工夫（苦労談）なども伺えれば，さらに理解が進むのではないかと想像する次第です。
- 授業づくりに参考となるプログラムでした。授業の構成や提示する課題のあり方など何となくイメージできたように思います。有難うございました。
- 部局での対応に悩まされているクォーター制導入科目がテーマであったため，FD 班からクォーター制移行の利点（教員の研究時間と学生の学習時間を天秤にかけるのは好ましくないので，他の理由が欲しいですね），授業科目そのものに対する学習効果（専門科目ではコミュニケーション能力だけでは資格として認められませんので）等，クォーター制反対意見の多い専門科目担当教員団への説得材料になり得る報告を期待していたのですが，部局での専門科目に直接関わらない，教養授業一辺倒のいつもの報告会であったため，モジュール担当教員の授業作りには役立つと思うが，クォーター制対応に向けての部局での検討には役立たなかった。大学全体に関わるテーマなので，大学の FD としてそろそろモジュールから離れ，大学教育とクォーター制についての FD をお願いしたいです。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ･内容についてご意見･ご要望をご記入下さい。

教育職員

- 入試問題作成講習会
- モジュール制度の今後

・　個人的には参加したいFDがあっても，時間の調整ができずに参加できない状況です。
・　毎年，参加が多いFDや評価が高いFDはより複数回開催していただくことを希望いたします。
・　進行中なので，次年度以降のことになるかと思いますが，COC+（地域課題）の事業内容・概要を取り上げていただきたいと思います。
・　本日議論になった知識を教授する講義の運営方法
・　クォーター制導入は大学全体に関わるテーマなので，大学のFDとしてそろそろモジュールから離れ，大学の教育とクォーター制導入についてのFDや，クォーター制の中での専門教育や実習の在り方に関するFD等をお願いしたいです。

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本ＦＤは、「クォーター制導入の科目による事例報告」と題して開催された。そこでは、クォーター制を導入している教養教育科目の事例３件について、利点や課題点をめぐる情報を共有した。全体討論では、クォーター制に係る利点や課題点のほかに、授業の構成、課題提示、アクティブラーニングの導入等に関する質疑応答も交わされた。参加者からの評価として、満足度については「あてはまる」（40%）と「ややあてはまる」（40%）を合わせると 80%であることから、大多数が満足していたことが確認された。また、今後の授業に活かせる有益度については、「あてはまる」（20%）と「ややあてはまる」（70%）を合わせると 90%であることから、ほぼ参加者全員が満足していたことが確認された。参加者の意見には、例えば、2 コマ連続の授業においていかに学生の集中力を持続させるか、課題の提示とその評価をいかに客観的に行うかなど、クォーター制による授業を行う上での工夫を知りたいという声が聴かれたり、大学教育とクォーター制の在り方に係るＦＤを望む声が聴かれたりと、本テーマに関する関心の高さがうかがえるＦＤであった。

（文責：　松元浩一　教育学部・教授）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　星野 由雅
e-mail：hoshino@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１４９回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２９年３月１６日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD スプリングワークショップ
「『基礎力テスト』報告会　－4 年間の総括－」

２．日　時：平成 29 年 3 月 6 日（月）10:30～12:00

３．場　所：文教キャンパス　第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　○　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　○　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
本学では，平成 24 年度から初年次生と平成 26 年度から 3 年次生を対象に社会人基礎力を測定する「基礎力テスト（PROG）」を実施しています。このプログラムでは，これまで 4 年間を通して見えてきた本学学生の全体傾向と学部毎の特徴や他大学との比較等を踏まえて，本学学生の汎用的技能（ジェネリックスキル）の状況と今後の教育課題を検討します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】松村直樹　氏
石川純一　氏（株式会社　リアセック）

【内容】
①4 年間の「基礎力テスト」の分析結果をもとにした総括

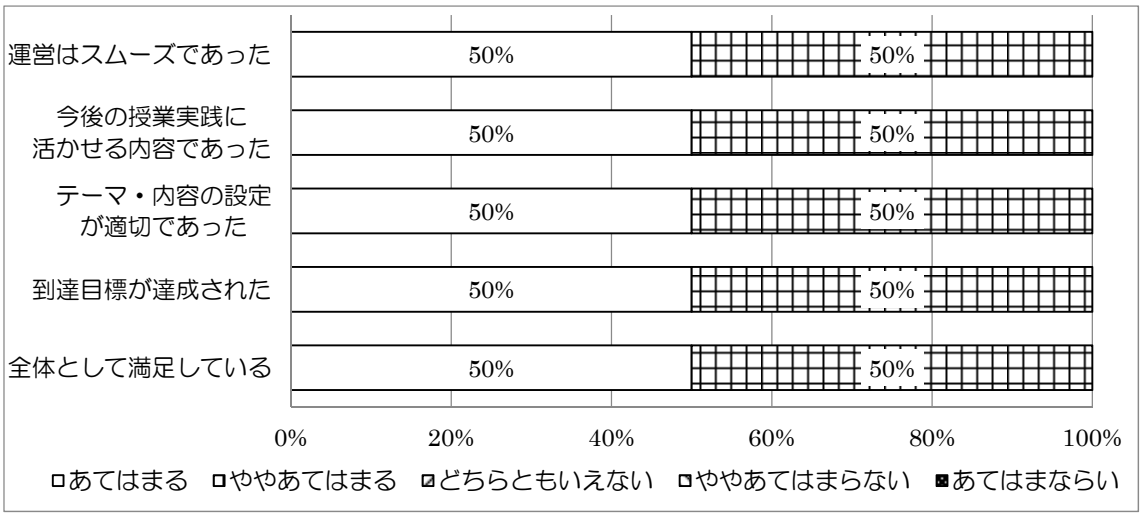
②汎用的技能（ジェネリックスキル）向上のための教育事例の紹介
③自由な意見交換

【到達目標】
①本学学生の汎用的技能（ジェネリックスキル）の状況を説明できる
②分析結果に基づき，本学学生の汎用的技能の教育課題を挙げることができる

９．参加者：8 名（受講証発行対象者：7 名）
（内訳）

所　　属	人　　数
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
工学研究科	1
大学教育イノベーションセンター	3
学生支援部	1
理事	1
計	7

１０．実施したＦＤの成果等
（１）参加者からの評価（回答者：2 名）



●今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。
教育職員
・　いままで長崎大学で実施された PROG の総括であり，たいへん興味深く受講しました。各学部学生の課題が明らかになり，有意義でした。PROG は長崎大学生全体，学部学生全体，および各学生の基礎力（リテラシーとコンピテンシー）を知るうえで重要なツールと思いま

す。一方，学部によってはいままで十分に利用できていなかった面もあると思います。大学の財政的なこともあろうかと思いますが28年度で中止することは大学にとってあまり得策ではないように思います。

●長崎大学FDとしてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。
回答なし

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

基礎力テスト（PROG）の開発元である株式会社リアセックの松村直樹代表取締役から長崎大学で実施された PROG の解析が詳細に報告されました。大学全体および各学部別の PROG 得点傾向、年次推移などの解析データは今後、入学者選抜方法、学部でのカリキュラム編成などに有効に利用されるべきと思われます。工学部では各学科レベルでのデータがほしいという参加者からの要望がありましたが、それにも対応できるとのことでした。各学生のデータは本人に通知しているとともに各学部の事務担当者に通知しているとのことであり、今後、各学部の教務委員会等でデータに基づいた学生個々への指導が行われることが望まれます。また、そのためにも今後も継続して PROG の実施が期待されるところです。　（文責　中山浩次　歯学部・教授）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　星野 由雅
e-mail：hoshino@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2077

第１４９回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２９年３月２１日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD スプリングワークショップ
「授業で使える動画コンテンツ作成クリニックーMac 版ー」

２．日　時：3 月 7 日（火）10:30-12:00

３．場　所：文教キャンパス　教養教育棟 A-12 番教室

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　○　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
ｅラーニングや反転授業のようなブレンディッドラーニングのニーズが高まる中で，教員が個人で動画形式の授業コンテンツを作成するためのノウハウが必要とされています。本プログラムでは，Mac 環境で比較的容易に動画コンテンツを作成する方法を紹介します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】北村 史 助教（大学教育イノベーションセンター）

【内容】
可能な限り特別な機材や有料のアプリケーションソフトウェアを使わずに，動画コンテンツを作成する環境の導入方法から基本的な使い方までを紹介します。

【到達目標】

①動画授業コンテンツを自分で作成できる

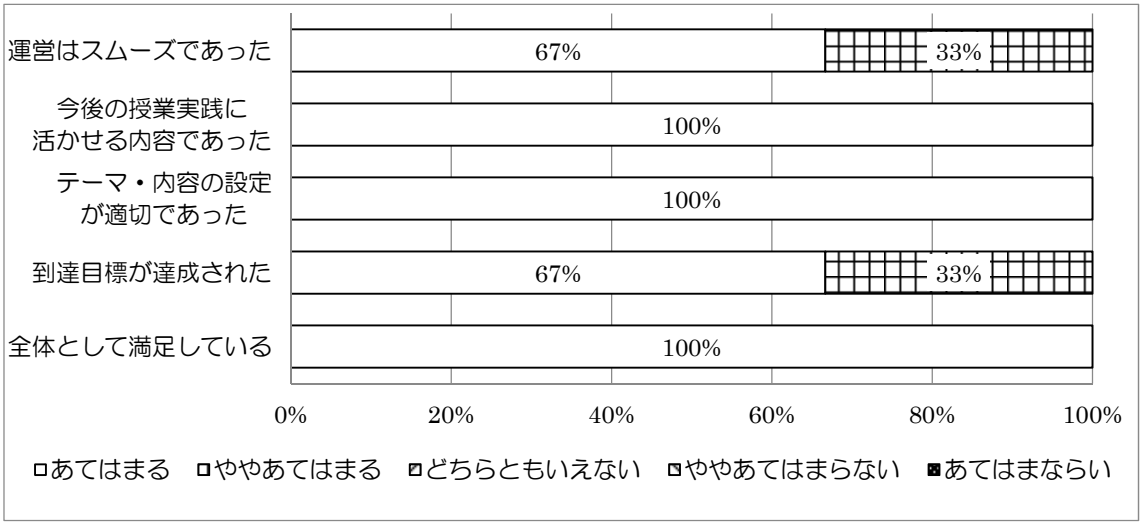
９．参加者：8 名（受講証発行対象者：8 名）

（内訳）

所　　属	人　数
教育学部	2
医歯薬学総合研究科（薬系）	3
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
先導生命科学研究支援センター	1
ICT 情報基盤センター	1
計	8

１０．実施したＦＤの成果等

（１）参加者からの評価（回答者：3 名）



●今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

教育職員

- 解説をしていただきながら，実際にやってみることで，使い方，作り方がよくわかりました。ペースもちょうど良かったです。ピクチャインピクチャ，ぜひ使って見たいと思います。ありがとうございました。
- これまで動画コンテンツを作成したことがなかったが，Mac にあるソフトを活用して，容易にできることがわかり，大変勉強になった。早速来年度の授業で活用したい。その際には，ラックスに掲載する必要があると思うが，その仕方がわからないので，ラックスの講習もあわせて受講したい。
- もう 30 分程長い方が良かった。

●長崎大学FDとしてとりあげるテーマ･内容についてご意見･ご要望をご記入下さい。
教育職員

・　今日の教養教育の方向性について。教養教育とは,,, という概論について詳しく知る機会が欲しいです。

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

今回のワークショップの到達目標は、「動画コンテンツを自分で作成できる」と非常に明快で、さらに、具体的には、a.授業をコンテンツ化することの教育上の効果や注意点について説明できる。b. Quick Time Player と iMovie の基本的な操作ができる。の２点に絞られており、同様の動機を持って受講者も参加したと思われ、高い満足度が得られています。授業は、まず、上記のａについての簡単な解説からでしたが、クオーター制における２コマ連続の授業設計を行なう場合に、動画コンテンツの利用は有効であるとことが理解できました。さらに，動画コンテンツは、繰り返し学習や都合の良い時間の学習を可能にする利点があるため、授業外の学習には非常に有効であるということも納得できました。しかしそれだけに、動画コンテンツの作成が重要な鍵を握る事になります。今回のFDは、すでに実施されたWindowsのためのFDでMac版のFDも開催してほしいという要望をうけての企画だと伺いました。Macを主に利用している教職員が対象という事で，参加者はそう多くはありませんでしたが、実技中心のこのプログラムに，参加者は非常に熱心に取り組み、少人数の学習という事もあって、個別に質問をしやすい雰囲気の中で講習が進められました。そのことは、アンケート結果にも良く現れており，十分趣旨に沿ったプログラムであったと思います。特に、Quick time playerは、動画再生のみの利用にとどまっていたものにとっては、動画作成のツールとして使用するためのスキルを学ぶ事が出来て大変有意義でした。恐らく、大学には、かなりの数のMac中心の利用者が居ると思われ、そのような人たちのためにも、また本FDの受講者としても、繰り返し学習してスキルを定着させるために、本プログラムの動画コンテンツがあれば---　と思った次第です。　　（文責　中山守雄　薬学部・教授）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　星野 由雅
e-mail：hoshino@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2077

第１４９回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２９年３月１７日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD スプリングワークショップ
「Disability, Discrimination, and Reasonable Accommodations at Nagasaki University」(Faculty/staff development program presented in English)

２．日　時：平成 29 年 3 月 7 日（火）13:00-14:30

３．場　所：文教キャンパス　第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　○　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
The "Act to Promote the Elimination of Discrimination Based On Disability" (障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律) took effect on April 1, 2016. The law prohibits unfair discriminatory treatment of individuals with disabilities, and requires organizations such as national universities to provide reasonable accommodations in the case of disability. This program will introduce the context and main provisions of the law, as well as relevant Nagasaki University regulations that were established or revised in the context of the law. We will also look at the types of disabilities experienced by students enrolled at NU, and discuss accommodations that are provided or currently available.

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】Peter Bernick（障がい学生支援室）

【内容】
① Legal context
② Relevant NU principles, guidelines, and regulations
③ Role and structure of Student Accessibility Office
④ Principles and examples of reasonable accommodations
⑤ Small group-based work/discussion
⑥ General Q&A

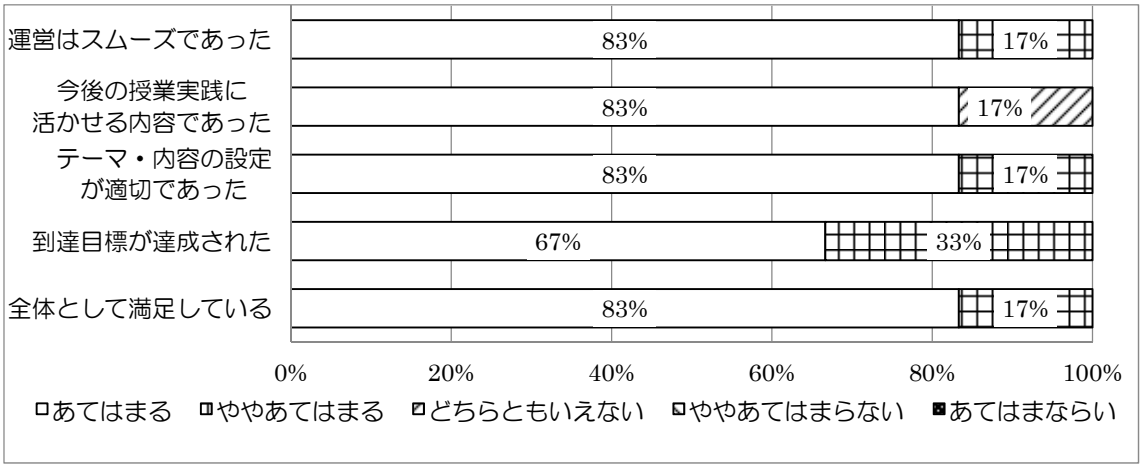
【到達目標】
① Understanding of the primary elements of the law, as well as how they relate to academic activities.
② Knowledge of NU systems & structures for supporting students who experience a disability.
③ Basic understanding of "reasonable accommodations" in the classroom.

９．参加者：9 名（受講証発行対象者：9 名）
（内訳）

所　　属	人　　数
経済学部	2
医歯薬学総合研究科（医系）	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
熱帯医学・グローバルヘルス研究科	2
熱帯医学研究所	1
言語教育研究センター	2
計	9

１０．実施したＦＤの成果等

（１）参加者からの評価（回答者：6 名）



到達目標：

① Understanding of the primary elements of the law, as well as how they relate to academic activities.

② Knowledge of NU systems & structures for supporting students who experience a disability.

③ Basic understanding of "reasonable accommodations" in the classroom

●今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

教育職員

・Excellent content. Best faculty development seminar I've ever been too.

・Good and relevant.

・I would like to have a longer training program (i.e. over a number of days) that shows teachers how to identify students how have problems and strategies to deal with these problems.

・Very useful information with practical examples

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ･内容についてご意見･ご要望をご記入下さい。

教育職員

・Give more examples.

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本プログラムは、障がい学生支援室のピーター・バーニック助教を講師としてお迎えし、日本語を母語としない教員を対象に、いわゆる「障害者差別解消法」の整備の経緯とその内容について学び理解を深めるとともに、本学で教育活動を行う際の具体的な支援体制を知り日頃の教育活動に役立てることが目的となっていました。法律の内容確認に加え、いくつかの事例やその対応例を紹介いただいたことで、参加者の理解も深まり対応方略のイメージがつかめるような内容でした。参加者からの評価（9名中6名が回答）をみても満足度は高く、良い学びの機会となったことがうかがえます。

今回のプログラムの中では、参加者から実際に自分が向き合っている学生についての話題提供もあり、皆でその事例について考える時間を持てたことはとても貴重な時間であったように思います。一方で、障がいのある学生にも配慮して充実した学びの機会と場を提供するためには工夫が必要で、繊細に扱うべき複雑な課題があるという理解にも至りました。参加者からのコメントにも、より長い時間をかけて教員が対応策を学ぶ機会に期待する内容がありました。引き続き、一歩踏み込んだ、具体的な教育活動に関する学びの機会を設けていく必要もありそうです。

特に、アクティブ・ラーニングを実践していこうとすると、グループワークやプレゼンテーションなど対人コミュニケーションの場面が増えていくことが考えられます。その際に、対人場面でのやり取りに難を抱える学生が、他の方法で自らの知性を発揮する道筋を授業設計に込めていく必要があると思われます。この点は、ユニバーサルなアクティブ・ラーニングの設計という課題とも位置づけられるもので、早急な対応が必要と思われます。

（文責：北村史　大学教育イノベーションセンター・助教）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　星野 由雅
e-mail：hoshino@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077